

あなたはどう学び、どう働きますか —春の京都で語らへん?—

産婦人科医を取り巻く環境と医療を改善するために
若手から新たな提言をするシンポジウムです。
あなたの声で産婦人科の未来を変えよう!



第61回日本産科婦人科学会学術講演会

第1回若手医師による企画シンポジウム

日時：平成21年4月3日（金）15時40分～17時40分

場所：京都国際会館 1階 RoomD

主催：日本産科婦人科学会・教育委員会

お問い合わせ先：若手企画グループ委員 wakate@jsog.or.jp

あなたはどう学び、どう働きますか

—春の京都で語らへん？—

産婦人科医を取り巻く環境は刻々と変化を続けており、社会の関心の的でもあります。産婦人科は沢山の問題を抱えています。過重労働などの勤務形態や報酬の問題、集約化など人員配置の問題、刑事・民事など司法と関わる問題、医局制度の是非、研修制度や専門医制度の在り方、女性医師働き方の問題、地域格差の問題、いかに学生や研修医を勧誘するか、など挙げればきりがありません。

今回の若手医師企画シンポジウムは、常勤・非常勤、病院・クリニック、大都市・地方、医局・非医局、子育て中など様々な勤務形態にある、主に若手の産婦人科医師たちが本音で語り合い、それぞれの立場から産婦人科を今より魅力あるものとするためにはどうすれば良いかを話し合うのが主目的です。そして、どういうアクションを起こせばより若い世代の医師たちが積極的に産婦人科を志望してくれるのか、シンポジウムの終わりにアイデアをまとめて提言を行います。

シンポジウムでは、私たちの「やりがい」について、研修や生涯学習の方法や能力の評価システム、労働量や責任の正当な評価、医師患者関係など、様々な側面から議論を行います。日本産科婦人科学会では、産婦人科医療を改善するための処方箋としてアクションプランを掲げています。当日は私たち若手の立場から、これを補完し出来ればこれを超えるような、モチベーションアップのアイデアについて話し合う予定です。

偏りなく、様々な年代、勤務形態、勤務先の規模、地域、性別の人たちの本音が知りたい、そして多少過激であっても若手の立場からポジティブな提言をして欲しいというのは学会の願いでもあります。

シンポジストだけでなく、当日は参加者全員から産婦人科の現状を改善するご意見を募集します。それがきらりと光れば、あなたの意見が提言に盛り込まれるかもしれません。産婦人科の未来を魅力あるものにするために、会場全体で活発な議論を行いましょう。未来を変えるのはあなたの一声かも知れません。

当企画ウェブサイト：<http://jsog.umin.ac.jp/61/wakatekikaku.htm>

問い合わせ先：若手企画グループ委員 wakate@jsog.or.jp